

3 事業概要

環境科学センターは、「良好な環境の確保に必要な試験研究・調査・指導等並びに環境保全の啓発及び普及を行う」（神奈川県行政組織規則）ために設置された試験研究機関です。

平成20年度からは、当センターの取り組むべき業務の方向性や取り組む分野、行動目標を示した「環境科学センター業務推進方針」に基づき、多様な活動主体との連携・協働のもと、業務を行っています。

○主な業務

- 1 環境の質の継続的な監視
 - ・法令等に基づく立入検査、環境基準等の達成状況の把握、未規制物質の監視・調査
 - ・汚染事故等発生時の迅速な環境調査
- 2 重点的な調査研究の推進
 - <環境基本計画等に基づく重点課題>
 - ・水域における化学物質の汚染実態解明と環境リスク評価
 - ・水源環境の保全に関する研究
 - ・地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する調査研究
 - ・循環型社会の形成に関する研究
- 3 環境情報の整備と提供
 - ・最新の環境情報の収集・整備、環境施策の評価等のための環境情報の提供
 - ・県民ニーズを踏まえた環境情報の提供、積極的なアウトリーチ活動の展開
- 4 環境保全のために行動する人材の育成
 - ・環境学習のための多様なプログラムの提供と情報共有、環境学習施設・設備のオープン利用の推進、市町村職員の効果的な研修

3. 1 環境情報部

環境情報部には、①環境活動推進課、②環境監視情報課を置き、それぞれ次のように業務を推進しました。

3. 1. 1 環境活動推進課

企画調整業務として、試験研究業務の総合的企画調整、所内プロジェクト研究の企画・進行管理、研修業務及び他機関との連絡調整等を行うとともに、環境学習業務として、地域で環境保全や環境学習活動を実践する市民の育成や支援のために各種の講座を開催しました。また、業務成果の普及・啓発、広報業務として、各種の発表会やホームページでの普及啓発を行うとともに、施設公開や記者発表等を行いました。

(1) 企画調整業務

アのとおり平成20年度に策定した「環境科学センター業務推進方針」の見直しを行うとともに、県全体の試験研究機関の機関評価事務を行いました。また、試験研究業務の推進と運営については、**イ**のとおり外部の委員で構成する研究推進委員会を開催し、重点的な研究課題について評価を実施し、結果を公表しました。

更に、**ウ**のとおり当センター職員、県及び市町村環境関係業務担当職員を対象とした人材育成に係る研修業務等を実施するとともに、**エ**のとおり技術相談及び講師派遣・出前講座を行い、**オ**のとおり審議会、委員会等への職員派遣を行いました。

また、所内のプロジェクト研究の企画・進行管理を行うとともに、**カ**のとおりプロジェクト研究として「地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する調査研究」の取りまとめを行いました。

ア 業務推進方針の見直しと機関評価への対応

事業名	概要
1 業務推進方針の見直し	当センターの活動の方向性を示した「環境科学センター業務推進方針」を平成20年度に策定したが、状況の変化に機敏な対応を行うため内容を見直すこととした。そのため、所内に見直しのためのワーキンググループを設置し、検討を行い、改正案を作成した。
2 機関評価への対応	平成20年度に「神奈川県試験研究機関機関評価委員会」が県の全県試を対象に機関評価を実施した。評価結果及び県試に対する提言から成る報告書が、平成21年4月に知事に提出され、その後、当センターを含む各県試において、提言に対する対応の検討を行い、同年7月に対応方針として取りまとめられた。

イ 試験研究業務の推進と運営

事業名	概要
1 研究推進委員会 (外部評価) H22/2/22	平成3年度設置。共立女子大学芳住教授を委員長とする学識経験者6名で構成。当センターが実施する試験研究を効果的に推進するため、客観的かつ公正な外部評価を実施し、適正な業務の遂行を図った。 [平成21年度評価対象] 平成22年度にプロジェクト体制で取り組む「環境中の化学物質の汚染実態解明と環境リスク評価」をはじめ、「水源環境保全」、「地球温暖化及びヒートアイランド対策」の3主要課題の研究計画等。
2 研究計画等説明会 H20年度研究結果 :H21/5/8 H22年度研究計画 :H21/12/21	環境科学センター研究業務実施要綱に基づき、当センターで実施した平成20年度の研究結果及び22年度研究計画についてそれぞれ説明会を開催し、重点課題等について評価を行い、適正な研究業務の遂行を図った。
3 調査研究業務の進行管理等	4. 1のとおり所内の研究プロジェクトの進行管理を行うとともに、地球温暖化対策のための「地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する調査研究」の取りまとめ等を行った。(内容については、4. 2. 1に結果概要を掲載)
4 研究機能高度化への対応(総合政策課)	重点基礎研究事業等への応募の調整等を行い、当センターからは平成21年度重点基礎研究2課題が採択された。

ウ 人材育成の推進

事業名	概要
1 研修派遣 環境省環境調査研修所 及び各種学会等の研修	環境問題全般に関する専門的知識と技術を取得するために環境省環境調査研修所や各種学会等が主催する研修等に職員を派遣した。 ①環境省環境調査研修所主催研修 ・特定機器分析研修Ⅱ(LC/MS)(10日間:小松宏昭) ②学会及びその他の研修 ・学会等セミナーのほか学会の聴講やシンポジウムに適宜参加

2 大気水質担当職員研修	<p>県及び市町村の大気水質等の行政に携わる職員を対象に研修を実施した。</p> <p>①環境保全関係法令研修 H21/5/19, 21, 26, 28の4日間 受講者 延べ169人</p> <p>②技術研修 H21/5/12, 10/16の2日間 受講者 延べ58人</p>
3 廃棄物担当職員研修	<p>県及び廃棄物処理法上の政令4市の廃棄物行政に携わる職員を対象に研修を実施した。</p> <p>①廃棄物関係法令研修 H21/5/20, 22, 29の3日間 受講者 延べ70人</p> <p>②技術研修 H21/10/30 受講者 18人</p>
4 勤務発明に係る特許、 実用新案の出願	<p>「神奈川県職員の勤務発明等に関する規則」に基づき、「環境科学センター勤務発明検討委員会議設置要綱」(平成11年6月1日施行)を定めている。</p> <p>平成21年度末における当センター職員の勤務発明による特許等の保有状況は6. 1のとおり(出願中のものを含む)。</p>

エ 技術相談及び講師派遣等

事業名	概要
1 環境保全に関する 技術相談・技術支援	<p>工場・事業所及び県民、自治体の環境行政担当職員等から28件の技術相談を受け付けた。</p> <p>主な内容は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路騒音、航空機騒音及び低周波音の測定について ・水素発酵技術の可能性について ・しめさばのつけだれ廃水の処理について ・化学物質の分析手法について
2 講師派遣・出前講座等	<p>当センターの調査研究事業の専門性から、事業者団体や大学等からの依頼を受けて、講習会、研修会の講師として職員を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度講師派遣：14件／派遣職員延べ18人 <p>また、児童・生徒の理科離れの解消や地域の環境活動を支援するために、センター職員のアウトリーチ活動の一環として平成19年度から出前講座(授業)を制度化し、積極的な活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度出前講座(授業)：24講座/受講者数1,244人 (参考：平成20年度出前講座(授業)：29講座/受講者数1,095人) <p>なお、講師派遣先及び講座名等は、5. 2のとおり。</p>
3 インターンシップ等の	<p>県における就業体験の機会を通じ、学生の就業意欲の向上及び県行政</p>

受け入れ

に対する理解の増進を図るため県が実施しているインターンシップ（学生実習生受け入れ制度）により学生の受け入れを行った。

・平成21年度受け入れ学生数 3名

また、当センターの調査研究事業の専門性から、大学等からの依頼を受けて、学生の学外実習の受け入れを行った。

・平成21年度受け入れ学生数 1名（大学院生）

オ 審議会、委員会等への派遣

当センターでは市町村の審議会や、国又は市町村等が行政方針の決定や、課題の解決のために設置した委員会等に多くの職員が委員として参画し、様々な分野について、知識や技術的な面での助言等を行っています（平成21年度に参画した審議会、委員会等については5. 3のとおり）。

カ 調査研究業務

研究プロジェクトとして、「地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する調査研究」の2課題を実施しました。

（内容については、4 試験研究・調査の概要の4. 1に課題を、4. 2及び研究報告に結果概要等を記載）

（2） 環境学習業務

環境学習業務は、ア、イ及びウのとおり地域で環境保全や環境学習活動を実践する市民の育成や支援のために「環境活動人材育成講座」、「環境活動テーマ別講座」を実施するとともに、エ及びオのとおり夏休み期間中の児童を対象に「子ども環境体験教室」及び「夏休み環境実験デー」を開催しました。また、カのとおり（NPO）神奈川県環境学習リーダー会等が開催する「市民環境活動報告会」に対する支援を行うとともに、キのとおり環境学習室や実習室等の利用者に対する支援を行いました。

ア 環境活動人材育成講座

〔目 的〕 地域で環境調査活動や環境学習活動を実践する人材を育成するため、身近な環境問題について理解を深め、実践に役立つ知識や技術を学ぶ2コースを開催。

（ア）「環境調査コース」

〔内 容〕 身近な環境の大気、水質、生物などの調査法

〔会 場〕 環境科学センター（1日目午後のみ伊勢原ふれあいの森）

〔参加者〕 32人

日 程	内 容	講 師
①H21/5/30（土）	河川とその周辺の環境調査（野外実習）	環境科学センター 野崎隆夫・本多久男 荻野自然観察会 花上友彦
②6/6（土）7（日） のいずれか1日	水質分析（実習） 水生生物同定（実習）	環境科学センター 本多久男・島田武憲 環境科学センター 野崎隆夫・本多久男
③6/13（土）	大気分析Ⅰ（実習） 騒音測定（実習）	環境科学センター 本多久男 環境科学センター 石井 貢
④6/20（土）	大気分析Ⅱ（実習） 身近な自然の調べ方（講義と実習）	環境科学センター 高橋通正 東海大学教養学部准教授 藤吉正明
⑤6/27（土）	葛川の水質調査活動（講義） 調査データの地図化（実習）	葛川をきれいにする会 藤田尚志 環境科学センター 岡 敬一

(イ)「環境学習指導コース」

[内 容] 環境学習プログラムの実施手法等を体験的に学ぶ。

[会 場] 環境科学センター（1日目午後のみ平塚市八幡山公園）

[参加者] 24人

日 程	内 容	講 師
①H21/9/24 (土)	環境教育論（講義） ネイチャーゲーム（野外実習）	麻布大学環境保健学部 福井智紀 (社)日本ネイチャーゲーム協会 村田範子
②10/ 3(土)	地球温暖化問題と暮らしの省エネ 神奈川県地球温暖化防止への取組 事例発表（企業の取組）	(財)省エネルギーセンター 野尻雅人 県環境計画課 浦 隆美 東京電力(株)神奈川支店 奥原美帆
③10/10(土)	神奈川県廃棄物・リサイクル（講義）	県廃棄物対策課 浅場 周
④10/17(土)	神奈川の大气汚染（講義） 大气環境教育の手法（講義） 水環境教育の手法（講義） 事例発表（環境教育）	環境科学センター 岡 敬一 環境科学センター 武田麻由子 環境科学センター 齋藤和久 (NPO)アース・エコ 北村博子
⑤10/24(土)	事例発表（地域の取組） 事例発表（学校での環境教育）	厚木なかちょう大通り商店街振興組合 木村嘉宏 横浜市教育委員会 尾上伸一
⑥11/ 7(土)	環境学習プログラム体験 ワークショップの手法	(NPO)神奈川県環境学習リーダー会 齋藤昭一 (株)生態計画研究所 小河原孝生

イ 環境活動テーマ別講座

[目 的] 地域で環境保全活動や環境学習活動を実践している人を支援するため、専門分野別コースを開催した。

[内 容] 平成21年度：「地域生態系保全コース」

当センターが実施してきた田んぼの生き物調査などを中心として地域生態系保全の基礎と環境保全活動を実践する上での実技や知識習得をめざす。

[会 場] 環境科学センター（2日目は現地見学）

[参加者] 37人

日 程	内 容	講 師
①H22/2/27 (土)	地球温暖化と生物多様性 (市民環境活動報告会講演と合同)	東京大学名誉教授 岩槻邦男
② 3/ 7(日)	地域生態系保全（講義） 田んぼの水辺生態系保全 海岸動物の生態系保全	東海大学教養学部准教授 藤吉正明 環境科学センター 齋藤和久 環境科学センター 萩谷盛雄
③ 3/13(土)	里地里山保全活動の紹介	美しい久野里地里山協議会 星野清治 西湘地域県政総合センター 吉田 寿
④ 3/20(土)	①現地見学 ②水辺の生き物調査 ワークショップ	美しい久野里地里山協議会会員 環境科学センター 齋藤和久 環境科学センター 本多久男 小網代野外活動調整会議 築瀬公成

ウ 教員のための環境学習講座

[目 的] 学校の教室でも簡単に楽しく行うことができる実験や体験教室の手法を学ぶ。講師は当センター職員と豊富な出前授業の経験を持つNPO団体が務めた。

[会 場] 環境科学センター

種 別	開催日	内 容	講 師	参加者
消費者教育教員 研修	H21/8/10 (月)	地球温暖化防止の取組	地球っ子ひろば 齋藤美代子	40人
		環境問題がわかる実験	環境科学センター 渡邊久典	
教員のための環 境学習講座	H21/12/12 (土)	学校で使える環境実験	環境科学センター 萩谷盛雄	11人

エ 子ども環境体験教室

[目 的] 子どもに環境に係わるさまざまな体験を通して、環境問題の重要性に気づかせる。また、環境学習リーダーを講師に活用することで、子どもたちにより親しみを持ってもらうとともに、リーダー自身の技術向上も図ることをめざす。特に、21年度は地域における環境教育の機会を増やすため、NPO団体と協働して県内各地でも教室を開催した。

(ア) 環境科学センターで開催 [参加者] 小学校4～6年生 延べ68人

開 催 日	内 容	参 加 者
①H21/ 7/31(金)	① ソーラーヘリコプターを作って太陽の力を感じよう	25人
② 8/ 7(金)	② お日さまランタンを作って地球温暖化防止	26人
③ 8/14(金)	③ 二酸化炭素について調べてみよう	17人

(イ) 県内各地で開催 (NPO法人との協働事業で実施) [参加者] 小学校4～6年生 延べ155人
委託先：NPO法人神奈川県環境学習リーダー会

地 区	開 催 日	内 容	参 加 者
県央 ・ 足柄上	H21/7/30(木)	ソーラーオルゴールを作ろう	36人
	8/ 1(土)	ソーラークッカーを作ろう	19人
	7/20(月)	ソーラーオルゴールを作ろう	33人
	8/ 9(日)	間伐材を利用した木工クラフト	16人
横三	7/27(日)	ソーラーオルゴールを作ろう	34人
	8/20(木)	潮溜まりの生き物観察	17人

(ウ) 県内各地で開催 (NPO法人との協働事業で継続事業) [参加者] 小学校4～6年生 延べ32人
委託先：NPO法人神奈川県環境学習リーダー会

地 区	開 催 日	内 容	参 加 者
横浜川崎	H21/8/ 7 (金)	牛乳パックで紙すきを行いハガキを作る	19人
西湘	8/20 (木)	セミのぬけがらを調べよう	13人

オ 夏休み環境実験デー

[目 的] 子どもが環境問題を身近なこととして捉えるとともに、実験を通して科学に親しむ。
 当センター研究員が講師を務める。5日間、午前・午後の2回 全10回（電話で申込み）
 [会 場] 環境科学センター [参加者] 小学校4～6年生 延べ157人

内 容	開 催 日 (参加者)	
A 音の大きさを測定	7/22午前 (12人)	8/ 5午後 (14人)
B 空気のごみを分析 (二酸化窒素簡易分析計使用)	7/22午後 (13人)	8/12午前 (13人)
C プラスチックを見分ける (炎色反応実験)	7/29午前 (24人)	8/12午後 (5人)
D 水生生物を調べてみよう	7/29午後 (19人)	8/19午前 (14人)
E 水のごみを分析 (CODパックテスト使用)	8/ 5午前 (21人)	8/19午後 (22人)

カ 市民環境活動報告会

[目 的] 県内各地で自主的に環境保全活動を行っているグループによる活動状況や研究成果等の発表の場、また、参加者同士の意見交換を通じて環境保全・改善の輪を広げていく。
 [主 催] (NPO) 神奈川県環境学習リーダー会、(NPO) かながわ環境カウンセラー協議会、当センター、県環境計画課による実行委員会
 [開催日] 平成22年 2月27日 (土)
 [会 場] かながわ県民センター ホール [参加者] 140人

発 表 内 容 (発 表 者)
1 基調講演 「地球温暖化と生物多様性」・・・・・・・・東京大学名誉教授 岩槻邦男
2 口頭発表 (5題)
①西丹沢水系酒匂川の水生生物調査・・・(NPO法人神奈川県環境学習リーダー会 古谷敏夫)
②地球の未来にきれいな空気を！・・・(NPO法人神奈川県環境学習リーダー会 安丸元一)
③「資源の完全回収」への挑戦・・・(NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会 上村君代)
④太陽光を利用したソーラーキッチンがCO ₂ 0%。(ソーラーキッチン友の会横浜ジャパン 押見史)
⑤学び・伝える・エコ情報・・・・・・・・(神奈川県地球温暖化防止活動推進員 橋浦敬子)
3 ポスターセッション (10題)
①『チョウから環境をみる』・・・・・・・・(NPO法人 かながわ環境カウンセラー協議会)
②『三浦半島の生き物たち』・・・・・・・・(NPO法人 かながわ環境カウンセラー協議会)
③『ちゅら海とサンゴ礁の生き物たち』・・・・・・・・(NPO法人 かながわ環境カウンセラー協議会)
④『まもろう！のこそう！カララノギク』・・・・・・・・(NPO法人 かながわ環境カウンセラー協議会)
⑤『二ヶ領用水ウatching・フォーラムの活動と水質調査』・・・・・・・・(二ヶ領用水ウatching・フォーラム)
⑥『指標生物で「気候変動を見守ろう」』・・・・・・・・(NPO法人神奈川県環境学習リーダー会)
⑦『平成21年度NO ₂ 簡易測定報告』・・・・・・・・(NPO法人神奈川県環境学習リーダー会)
⑧『VOC・SPM・PM _{2.5} 』・・・・・・・・(NPO法人神奈川県環境学習リーダー会)
⑨『ソーラークッカーによるエコキッチン』・・・・・・・・(ソーラーキッチン友の会横浜ジャパン)
⑩『学び・伝える・エコ情報』・・・・・・・・(神奈川県地球温暖化防止活動推進員)

キ 環境学習施設・その他学習事業

環境学習施設 (環境科学センター1階)



事業名	概要
1 環境資料室・環境活動室の整備とオープン利用の推進	<p>多様な市民活動への積極的な支援のため、平成19年5月から従来の「活動支援スペース」に間仕切りをして、①環境関係資料の閲覧やビデオの視聴、インターネット検索ができる「環境資料室」と、②パソコン、作業台などを設置して環境保全活動の打合せなどに県民がいつでも自由に利用できる「環境活動室」として整備し、環境保全グループや一般県民等に貸し出した。</p> <p>平成21年度の利用数は、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境資料室： 61件 (延べ 191人) /環境活動室： 96件 (延べ 413人)
2 実習室の利用者への支援	<p>環境保全活動の科学的支援の場として、簡易な実験が行える「実習室」の貸し出し及び利用者に対する技術支援を行った。</p> <p>利用内容：河川水のpH、COD、全窒素、全リン等や大気中二酸化窒素濃度の分析をはじめ、ケナフの紙漉や省エネクッキング等</p> <p>平成21年度の利用数は、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習室：件数 96件 (うちセンター主催講座での利用 17件) 延べ1,814人 (うちセンター主催講座の受講者660人)
3 環境学習室の利用者への支援	<p>環境学習用のビデオ鑑賞や講話・会議・ワークショップなどに利用できる設備を備え、特に学校や団体の来所者に対して、講義等の学習支援を行った。</p> <p>利用内容：各種環境問題等に係るビデオ視聴と当センター職員の講話等</p> <p>平成21年度の利用数は、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習室：件数 46件 (うちセンター主催講座での利用 18件) 延べ1,260人 (うちセンター主催講座の受講者474人)
4 環境学習情報の提供	<p>環境学習のためのホームページ「地球環境学習ひろば」では、環境学習に関する情報を発信している。</p> <p>URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/learning/toppage.html</p>

(平成21年度アクセス数 271,888 件)

5 環境学習用機器類の貸し出し	環境保全活動の普及を目的として、環境学習用のビデオ、測定機器、観察機器等の貸し出しを行った。
6 市町村等の環境学習業務の支援	県市町村関係機関の要請に応じて、環境関連イベントや環境学習業務への支援・協力を行った。

(3) 普及啓発、広報業務

試験研究成果の普及啓発として、アのとおり業績発表会や環境・公害合同発表会を開催するとともに、業務報告・センターニュース発行及びホームページによる情報提供を行ったほか、イのとおり記者発表や施設公開等を行いました。

ア 試験研究・調査成果の普及、啓発

事業名	概要
1 第18回環境科学センター業績発表会 開催日：H21/11/11 場所：平塚プレジール 参加者：111人	当センターで実施している研究成果等業績の県民へ普及及び企業での有効活用を図ることを目的に発表会を開催した。 発表者及び発表テーマは、5. 1. 1のとおり。
2 第33回環境・公害研究合同発表会 開催日：H21/6/12 場所：横浜市技能文化会館 参加者：207人	当センター及び横浜市環境科学研究所、川崎市公害研究所の3機関で「神奈川県環境・公害研究機関協議会」を設置し、情報交換等を行っている。その一環として環境月間中に合同研究発表会を開催した。 発表者及び発表テーマは、5. 1. 1のとおり。
3 環境科学センター業務報告の発行	環境科学センター業務報告として、次のとおり年報と研究報告を合本して発行、全国の関係機関等に配布した。 平成21年版(2009)環境科学センター業務報告 ・環境科学センター年報第41号 平成20年度の事業概要等を取りまとめた。 ・環境科学センター研究報告第32号 平成20年度の研究等を取りまとめた。
4 環境科学センターニュースの発行	環境科学センターニュースを3回発行、県民及び県内外の関係機関等に配布した。 通巻29号(9月) 通巻30号(12月) 通巻31号(22年3月)
5 環境科学センターホームページによる情報の提供	平成19年7月にバリアフリー等に対応したデザインにホームページをリニューアルし、上記刊行物に加え、当センターの調査研究課題とその概要、主な研究成果とその活用例、記者発表資料と新聞等への掲載実績等を公開した。 環境科学センター(トップページ)

URL <http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/center/contents.html>

・平成21年度アクセス数：801,308件
(平成20年度アクセス数：816,897件)

イ 広報（記者発表・施設公開等）

事業名	概要
1 記者発表・情報提供	<p>平成21年度は、7件の記者発表を行った。その内訳は、行事案内6件（講座3件、発表会2件、施設公開1件）、事業関連1件（環境学習）であり、その概要は次の通りである。</p> <p>【平成21年4月22日】</p> <ul style="list-style-type: none">○第33回環境・公害研究合同発表会を開催します ～身近な環境問題や環境技術をテーマに研究成果を発表～○環境調査法を習得し地域環境活動に挑戦を！ ～環境活動人材育成講座（環境調査コース）のご案内～ <p>【平成21年6月26日】</p> <ul style="list-style-type: none">○今年も多彩に開催します！「夏休み子ども環境教室」 <p>【平成21年7月22日】</p> <ul style="list-style-type: none">○平成21年度環境活動人材育成講座 「環境学習指導コース」受講者募集 <p>【平成21年9月16日】</p> <ul style="list-style-type: none">○第18回環境科学センター業績発表会を開催します ～地球温暖化、水源保全、化学物質の最新の情報がわかります～ <p>【平成22年1月20日】</p> <ul style="list-style-type: none">○環境活動テーマ別講座「地域生態系保全コース」の受講者募集 ～身近な自然の生き物の生態系と保全手法を学びます～ <p>【平成22年3月24日】</p> <ul style="list-style-type: none">○科学技術週間に環境科学センター施設を一般公開！ ～様々な化学物質の分析機器や環境監視システムなどご覧になれます～
2 施設公開・イベント	<p>当センターの活動内容を知っていただくとともに、県民の環境問題への関心を広げ、科学技術に関する理解を深めるため科学技術週間中に施設公開を実施した。また、県青少年科学体験活動推進協議会の構成員として、「子ども科学探検隊」、八都県市の国際協力事業としてJICAの「青年研修事業」をそれぞれ1日受け入れた。</p> <ul style="list-style-type: none">①施設一般公開：H21/4/13～17の5日間 参加者30人②子ども科学探検隊の受け入れ：H21/7/28 参加者27人③青年研修事業の受け入れ：H21/9/14 参加者14人 (アフリカの7カ国からの研修員)

3 ポスター展示等

当センターの一階ロビー展示コーナーで、パネルを掲出して当センターの調査研究事業の紹介をするとともに、大気環境監視システム図や過去の大気汚染写真を掲出して地域環境に対する意識啓発を行った。

また、県政策部総合政策課科学技術室主催の「かながわ科学技術フェア」に展示ブース等を出展した。

①かながわ科学技術フェア（新都市プラザ（横浜駅東口））

開催日：H21/10/18, 19の2日間

ミニ・プレゼンテーション

「きれいな地下水を取り戻すために」

－汚染地下水の浄化実験－

研究成果等のポスター・資料の展示

3. 1. 2 環境監視情報課

環境監視業務については、(1) のとおり県内97か所に設置されている大気汚染常時監視測定局(注)を専用回線で結び、大気汚染状況を常時監視するとともに、光化学スモッグ注意報の発令などの緊急時措置を行いました。また、ダイオキシン、トルエン等の大気汚染調査、キシレン等の水域環境調査、公共用水域水質調査及び地下水水質調査の委託を行い、結果の精度管理を実施しました。

更に、(2) のとおり浮遊粒子状物質等の大気汚染物質の調査業務を行うとともに、騒音及び振動の低減化等の調査業務及び自動車騒音の面的評価を行いました。

環境情報業務については、(3) のとおり化学物質に関する情報の収集とインターネット等による事業所、県民等への情報の提供、県環境農政部の環境情報処理システム等の運用管理等を行いました。

(注) 大気汚染常時監視測定局

県内の大気環境を常時監視するため、次のとおり97か所の測定局を設置している。

- ・一般環境大気測定局61（うち大気汚染防止法の政令6市設置46）
- ・自動車排出ガス測定局31（うち政令市設置22）
- ・移動測定局2、立体気象観測局2、高層大気測定局1

(1) 環境監視業務

事業名	概要
1 大気常時監視測定局の維持運営	<p>①常時監視測定局の測定機器の保守管理 一般環境大気測定局15か所、自動車排出ガス測定局9か所、移動測定局2か所、立体気象観測局2か所、高層大気測定局1か所計29か所の測定機器</p> <p>②測定機器の更新 二酸化硫黄自動測定機4台、浮遊粒子状物質自動測定機3台、一酸化炭素自動測定機1台</p>
2 環境監視システムの運営事業	<p>①常時監視用コンピュータシステムの維持運営</p> <p>②大気汚染緊急時の措置 ・21年度中の光化学スモッグ注意報の発令は、4回（4月1回、5月1回、7月1回、8月1回）であり、被害の届出者は5人であった。</p> <p>③大気汚染常時監視測定結果の解析 ・「平成20年度神奈川の大気汚染」を発行した。</p>

3 ダイオキシン調査事業	①大気調査：15地点の委託を行い調査結果の精度管理を行った。 ②水域調査：河川29地点、湖沼1地点及び海域2地点の合計32地点で水質及び底質の委託を行い調査結果の精度管理を行った。 ③土壌・地下水調査：土壌6地点、地下水6地点で調査委託を行い調査結果の精度管理を行った。 ④汚染状況確認調査：過去の調査で環境基準値を超えた地点等で汚染状況を確認するための調査委託を行い調査結果の精度管理を行った（水質11地点、底質3地点）。
4 化学物質環境モニタリング調査	①大気環境調査：トルエンなど25物質について、9地点で調査委託を行い調査結果の精度管理を行った。 ②水域環境調査：キシレンなど15物質について、11河川で水質調査、4河川で底質調査、1河川で水生生物調査委託を行い調査結果の精度管理を行った。
5 公共用水域水質測定調査	19水域50地点を5地域に分割して水質測定の委託を行い、調査結果の精度管理を行った。 ・河川（流入河川を含む。）は14水域21地点を2地域に分割して委託 ・湖沼は2水域12地点を委託 ・海域は3水域17地点を2地域に分割して委託
6 地下水質測定調査	142地点を2地域に分割して水質測定の委託を行い調査結果の精度管理を行った。 ・メッシュ調査66地点 ・定点調査37地点 ・継続監視中39地点

(2) 行政関連調査（結果については、4. 2. 2 行政関連調査に記載）

① 騒音振動調査業務

調査項目	調査数	概要
1 騒音振動に係る法律、条例及び苦情等に基づく調査指導	8地点	地域県政総合センター及び大気水質課からの依頼に基づき、騒音振動に係る8地点の調査を実施し、問題解決のための調査データの提供と技術的支援を行った。
2 航空機騒音測定調査（大気水質課）	36地点	厚木海軍飛行場に飛来する航空機の騒音に係る環境基準達成状況を把握するため、基地周辺36地点の騒音を調査・解析した。
3 東海道新幹線鉄道騒音・振動対策調査（大気水質課、環境省委託）	8地点	東海道新幹線沿線地域の8地点において、騒音・振動調査を実施し、対策事例を検討した。
計	52地点	

② 自動車騒音面的評価業務

事業名	概要
1 自動車騒音面的評価業務	騒音規制法第18条に基づき、沿道建物調査、自動車騒音等調査を行うとともに、平成19年度に構築した自動車騒音面的評価システムを使用して、県内の道路延長214.9kmの区間について道路に面する地域の環境基準達成

状況を調査した。

(3) 環境情報業務

事業名	概要
1 環境情報処理システム維持運営事業	環境情報処理システム（県庁・地域県政総合センター間で稼働している工場・事業場情報管理システム、水質管理システム、産業廃棄物情報管理システム、自動車リサイクル情報管理システム及び環境科学センターで稼働している常時監視支援システムの5つのサブシステムで構成）の運用管理を行った。
2 化学物質安全情報提供システム整備事業	化学物質による環境汚染を未然防止するため、化学物質使用事業所の自主管理体制を支援する目的で構築した「化学物質安全情報提供システム」(KIS-NET)の維持管理を行った。 URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/kisnet/ (平成21年度インターネットアクセス数 1,495,558件)
3 情報提供業務	インターネットによる情報提供 ①県環境農政部の各室課のホームページの入口となっている「 かながわの環境 」を管理・更新した。 URL http://eco.pref.kanagawa.jp/ (平成21年度アクセス数 18,722,915件) ②PRTRデータ（平成17年度集計結果（平成16年度分データ））を更新した。 「 かながわPRTR情報室 」 URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/prtr/ (平成21年度アクセス数 34,980件) ③大気汚染常時監視データ等を提供した。 「 大気汚染常時監視測定結果月報 」 URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/taiki/data/ (平成21年度アクセス数 7,448,611件) 「 光化学注意報発令状況 」 URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/haturei/ (平成21年度アクセス数 258,136件) 「 光化学情報携帯サイト 」 URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/i/ (平成21年度アクセス数 126,772件) 「 光化学スモッグ情報メール 」「 大気濃度1時間値メール 」 メーリングリスト登録者にメールで情報提供した。
4 研究業務支援システム維持運営事業	所内の研究業務支援システムの維持管理を行った。

3. 2 調査研究部

平成20年4月1日に旧環境保全部と環境技術部を統合のうえ「調査研究部」とし、①化学物質担当、②水源環境担当、③地域課題担当の3つの担当を置き、①大気、水域のダイオキシン類やPRTR対象物質などの化学物質調査、②有害大気汚染物質や浮遊粒子状物質などの大気環境調査、③法・条例に基づく廃棄物処分場、事業所排水の行政検査や水質事故時調査をそれぞれ行いました。

平成21年度の主な業務は、行政関連としては、化学物質環境調査、ダイオキシン類分析調査、丹沢大山自然環境保全対策調査、産業廃棄物及び一般廃棄物関連の焼却灰・埋立浸出水・放流水等の検査、事業所排水・地下水等の水質検査等を行いました。

また、平成18年度からダイオキシン、化学物質、公共用水域、地下水のモニタリング調査が民間委託されたのに伴い、分析値の精度管理などを実施しました。

調査研究業務としては、プロジェクト研究及び地域課題研究に部を横断して取り組むとともに、国立環境研究所等との共同研究等に取り組みました。

3. 2. 1 行政関連調査 (結果については、4. 2. 2 行政関連調査に記載)

(①化学物質担当関係)

調査項目	調査数	物質(検体)数	項目数	概要
1 化学物質環境調査 (大気水質課)				
(1) 化学物質濃度調査(水域) ・水質 ・底質 ・生物	(地点×回) 11×2 4×1 1×1	15 8 7	330 32 7	以下の水質・底質・生物調査を実施した。 水質についてPRTR排出データ、安全性影響度評価指針の毒性ランク、内分泌攪乱作用についての研究成果を考慮して選定した計15物質群を11河川で年2回、底質について8物質を4河川で年1回、生物についてコイを対象として7物質を1河川で年1回
(2) 生態影響試験 ・藻類及びミジンコ ・メダカ	11×2 3×2	2 1	44 6	11地点で年2回、水環境中の化学物質による藻類及びミジンコへの影響に関する調査を実施した。 3地点で年2回、水環境中の化学物質によるメダカへの影響に関する調査を実施した。
2 ダイオキシン類分析調査	(6件)	15	15	ダイオキシン類対策特別措置法に基づく立入検査として4事業所8検体を、産業廃棄物最終処分場周辺公共用水域調査及び地下水調査として6検体を、それぞれ分析した。 その他精度管理として1検体を分析した。

2 化学物質環境汚染実態調査 (環境省)

(1) 初期環境調査 (大気)	1地点×3日	(1)	(3)	p-オキシ安息香酸メチルを測定するため3日間連続で大気試料を採取した。
(2) 詳細環境調査 (大気)	1地点×3日	(5)	(15)	過去に検出例のあるクレゾールなど5物質3系統を測定のため3日間連続で大気試料を採取した。
(3) 化学物質分析法開発調査	1件	(1)		フタル酸n-ブチル=ベンジル (別名BBP 可塑剤の一種) 大気中濃度測定法を開発した。

(4)モニタリング調査	1地点 ×6回		(28)	残留性有機汚染物質 (POPs) 等、ペンタクロロベンゼンの分析のために大気試料を採取した。
3 ダイオキシン類分析統一精度管理調査 (環境省)	1回	39	39	共通試料 (ばいじん) 1検体のダイオキシン類及びコプラナーPCBの39異性体について精度管理試験を実施した。
4 有害大気汚染物質モニタリング調査に係る精度管理調査	1件	(12か月分)	40	有害大気汚染物質 (19物質) による汚染状況を把握するために大気中濃度の測定調査を委託している分析機関に対する精度管理を実施した。
5 1,3-ジクロロプロペン大気環境濃度実態把握調査 (大気水質課)	4地点 ×4回	(16検体 ×2物質)	32	土壌燻蒸剤として今後の使用量増加が予想されるため、県内4地点において、季節毎に年4回、cis-及びtrans-1,3-ジクロロプロペンの大気環境中濃度の実態調査を実施した。
6 ダイオキシン類常時監視等に係る精度管理調査	1件	57地点	166	ダイオキシン類の汚染状況を把握するため常時監視等の測定調査を委託している分析機関に対する精度管理を実施した。
7 環境測定分析統一精度管理調査 (環境省)	1回	1	4	模擬大気試料の揮発性有機化合物 (ベンゼン、1,3-ブタジエン、トリメチルベンゼン類、CFC12) について精度管理試験を実施した。

(2)水源環境担当関係)

調査項目	調査数	物質 (検体) 数	項目数	概要
1 丹沢大山自然環境保全対策事業調査 (自然環境保全センター)	4地点	4	16	平成16年から実施している檜洞丸測定点におけるオゾンの連続測定の外に、自然環境保全センターと共同で丹沢山、大野山、堂平の3測定点を追加し、合計4測定点で山間地のオゾンの連続測定を実施した。
2 化学物質大気環境調査 (大気水質課)	3地点 ×4回	12検体 (×4物質)	48	PRTR制度により届出のあった物質のうち、特に大気排出量の多いトルエン、キシレン (o-, m-及びp-) 及びエチルベンゼンの大気中濃度のモニタリング調査を実施した。
3 アスベスト含有調査	6件	31	62	建材中のアスベスト含有の有無と種類を判定した。
4 アスベスト環境調査 (解体工事等)	31件 (9施設)	163	326	建築物解体工事等における環境調査を実施した。

5	アスベスト環境調査（一般環境）	21件 (7箇所)	42	42	常時監視測定局における環境調査を実施した。
6	アスベスト確認分析	89件	89	89	建築物解体工事等における事業者調査が適切であるか確認するための分析を実施した。
7	PM2.5対策共同調査				道路沿道及び一般環境においてPM2.5実態調査を実施した。
	(1) 県市共同調査	2地点	20	220	・ 県2市によるPM2.5実態把握調査 (神奈川県公害防止推進協議会浮遊粒子状物質対策検討部会) : 1県2市
	(2) 広域共同調査 (関東地方)	1地点	5	215	・ 浮遊粒子状物質合同調査 (関東地方環境対策推進本部大気環境部会浮遊粒子状物質調査会議) : 1都9県6市
8	県市酸性雨共同調査	1地点	68	748	・ 県市酸性雨共同調査 : 1県5市 東アジア方式による酸性雨調査を県内1地点において実施した。当センターでは、原則として1週間に2回降水を採取し、降水量、酸性度 (pH)、電気伝導率 (EC) 及びイオン成分濃度を測定した。

(③地域課題担当関係)

調査項目	調査数	物質 (検体) 数	項目数	概要
1 産業廃棄物等の行政検査	18施設	37	657	処理施設のばいじん、焼却灰、中間処理物、埋立地浸出水、放流水等の検査を実施した。
2 一般廃棄物等の行政検査	25施設	52	1,206	処理施設のばいじん、焼却灰、埋立地浸出水、放流水等の検査を実施した。
3 環境測定分析統一精度管理調査 (環境省)	1回	1	3	廃棄物 (ばいじん) 試料について溶出試験を行い、検液中の鉛、銅及びカルシウムについて精度管理試験を実施した。
4 法律、条例に基づく工場等立入検査 (大気)	1工場	3	6	大気汚染防止法の有害物質の上乗せ基準値の見直しに係る調査を実施した。
5 法律、条例に基づく工場等立入検査 (水質)	75工場	77	449	水質汚濁防止法及び県生活環境の保全等に関する条例に基づき、対象工場の特定施設等の使用状況、排水基準適合状況等を確認するための立入調査及び排水の分析を行った。

6 苦情等に係る水質調査	5か所	22	121	地域県政総合センターが実施した苦情調査等に伴う工場排水、地下水、河川等の水質調査を実施した。
7 事故等に係る水質等の調査	6件	19	184	魚死亡や白濁水等の水質事故の原因究明のため分析調査を実施した。
8 公共用水域の常時監視等に係る精度管理調査	50地点	1,176	17,598	公共用水域及び地下水の水質測定計画に基づく水質調査の分析結果について、分析野帳等を確認する精度管理を行った。
9 分析機関の精度管理に関する調査	3事業 21事業所	35	62	公共用水域及び地下水の水質調査を委託している分析機関に対して、模擬試料を用いた精度管理調査を実施した。
計	—	—	20,286	

3. 2. 2 調査研究業務

プロジェクト研究として「水域における化学物質の汚染実態解明とリスク評価」2課題、「水源環境の保全に関する研究」3課題及び「循環型社会の形成に関する研究」3課題の計8課題のほか、地域課題研究1課題、重点基礎研究2課題及び共同研究4課題を実施しました。

(内容については、4 試験研究・調査の概要の4. 1に課題を、4. 2及び研究報告に結果概要等を掲載。)